

仙台陣屋かわら版

第六十号

(平成三十年二月号)

HP: <http://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/ka/jinya/> Mail: jinya@town.shiraoi.hokkaido.jp
〒059-0921 白老町陣屋町六八一 TEL&FAX 0144-85-2666 仙台藩白老元陣屋資料館発行

森竹竹市新着資料、いよいよ公開

白老に生まれ育ち、短歌・詩・論文など、多岐にわたる言論活動を生涯に亘り行った森竹竹市。さらには、そうした執筆活動の傍ら、アイヌ文化の収集・伝承・普及活動にも精力的に取り組んだ古老の所持していた民具資料を、いよいよ一月三十日から陣屋資料館の企画展示室にて公開します。

題して、「エカシが残した民族の宝展」。既刊のかわら版でもお報せしたように、二〇〇九年の晩秋に竹市のご子孫より寄贈いただいた、アイヌ民族がかつて日常的に使用していた民具資料を紹介することが主題となります。



〈資料展のチラシが出来ました〉

なお、これまでも森竹竹市研究会の活動成果として、町内や全国で展示会を開催してきました。今回も新着資料の紹介と併せ、研究会が明らかにしてきた竹市の足跡についても照会します。

森竹の功績や執筆活動に触れながら、翁が熱く訴え掛けた想いの丈について、改めて皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

また、この企画展と地域文化大学の講座とを関連させ、森竹翁の生涯とその時代背景についての講演会「森竹竹市翁について」を、一月十三日(土)、陣屋資料館にて行います。講師は森竹竹市研究会会長であると同時に、苫小牧郷土文化研究会会長・北海道文化財保護協会理事などを歴任されている山本融定氏です。参加費は二〇〇円。是非ともお誘いあわせのうえにご参加ください。

白老地域文化大学の活動から

第三三回白老地域文化大学講座「町おこし座談会 私のアイディア」を、一月九日、白老コミセンの調理室で行いました。

中村齋学長が司会進行役となり、学生が自由に意見を述べ合う形式の座談会です。加えて提示された問題に基づき、個々人が今後どのような行動を試みるかも発表しました。ときには鋭い、ときには思いがけない意見が飛び出すなど、和やかな雰囲気なが

らも刺激に富んだ集会となりました。どんな意見・目標が出されたのか、一例を挙げてみましょう。

- ・ポロト周辺に、団体で食事できる施設が必要。
- ・交通事情など、観光産業発展の下地整備。
- ・白老でも「ユルキャラ」を作りたい。
- ・既存の活動を、もっと世間に認めさせたい。
- ・白老独特の気象事情をPRしてはどうか。
- ・『白老カルタ』を作成しよう！

地域文化大学という枠組みの中での開催でしたが、大学に加入されていない方の中にも白老を愛し、もっともっと発展させたいという、熱い思いを秘めた方もいらっしやるでしょう。以降も何らかの場を設定し、継続的にこうした集まりを企画していく予定です。小さくとも力強い火種を寄せて、白老を活性化させる方策を一緒に話し合ってみませんか？

また今回の座談会も昨年と同様、学生から一品ずつ差し入れを頂戴して行いました。なかには一品どころか、抱えるほどの食材を持って来られた方も。改めてお礼を述べさせていただきます。



〈熱く語る学生と聞き入る学長〉

雛人形展に飾るお雛様を募集します

そんなわけで、今年も陣屋資料館では上巳の節句にあわせた、お雛様の展示会を催します。早くも三年目を数え、そろそろ恒例と表しても大言にはならないであろうこの企画。しかしやはり恒例として、皆さんのご協力が必要です。ご家庭で仕舞われたままのお人形がございましたら、是非とも陣屋資料館の展示室をご利用ください。



「おはなし会トトロ」による絵本の読み聞かせ

今年の雛人形展は、二月二十日（土）から三月三日（水）までです。期間中は随時募集を行っておりますので、ご賞与のほどよろしくお願い致します。ご連絡をいただければ、スタッフが春一番のご迅速に駆けつけます。ただ飾り付けだけはお手伝いをお願いしております。お手数をかけますが、ご協力くださいませ。

そしてこちらも恒例ですが、二月二十八日（日）には「お雛様会」を開催します。雛祭りに因んだイベントを揃えてお待ちしておりますので、ぜひご参加ください。

外はまだ寒いままかも知れませんが、みんな揃って賑やかに、華やかに、そして楽しく、春の訪れを慶びましょ。

平野学芸員が帯広で講演。

アイヌ風俗画から、狩猟の様子を解説

アイヌ風俗画という言葉をご存知ですか？これは特に近世から明治初期にかけ、アイヌ民族の生活の様子などを描き表した資料を指します。しかし、かつてのアイヌ民族の慣習では、絵を描くことは禁忌に値しました。むやみやたらに動物や人物の絵を描くと、悪い魂が宿って大変な事になるからです。またアイヌ風俗画、或いはアイヌ絵と呼ばれる資料は、アイヌ民族以外の人間が描いた資料という特徴があります。そして画とはいえ、美術館で見られるような絵画に限定されず、旅行記や日誌などの挿絵も含まれます。

一月十六日、古栗の帯広百年記念館で講演を行いました。狩の場面を描いた絵をピックアップし、昔

〈百年記念館の講堂、オーディトリウムにて〉



の狩について解説。また圧倒的に多い弓と矢を用いた狩の他、多様な猟も紹介。さらに北海道と樺太との狩猟の違いについても言及する一方で、絵画資料と民族誌を照らし合せて見たときに確認できる幾つかの矛盾やズレについても指摘しました。寒い中、二十数名の方がお越しくださいました。

白老地域文化大学叢書を図書館に寄贈

白老地域文化大学が「白老地域文化大学叢書」として発行してきた全八冊の冊子が、この度白老町立図書館に寄贈され、より皆さんに読んで頂きやすくなりました。ぜひ手にとってご覧下さい。

同大学講座のテーパー起こしをしたものや、個人が各紙に寄稿した文章をまとめたもの、広く寄稿を募って編纂したものなど形式は様々ですが、それぞれの視点から白老の過去、現在、未来が垣間見れる冊子になっているものと自負しています。全八冊のタイトルと著者は次の通りです。

『アイヌ民族博物館の必死』（中村齋著）

『高橋房次小伝』（山本融定著）

『江戸時代の北海道の姿を探る』（高木崇世著）

『私の想い』（武永真著）

『語り継ごう、私のお正月』（中村齋編）

『展示「私の思い出」をめぐる』（中村齋編）

『わがまちの姿と未来を探る』（伊東稔著）

『私の八月一日』（白老地域文化大学編）

なおこれらの冊子は、毎月の大学講座の受付や、陣屋資料館の窓口にて、一部二〇〇円にて販売もしています（利益は同大学の運営費として使用されます）。購入をお求めの方は、まずはお気軽に、陣屋資料館までお問い合わせ下さい。

「仙台陣屋かわら版 第五九号（平成二年二月号）」

発行日：平成二年二月二日

発行所：仙台藩白老元陣屋資料館 担当者：平野・坂本